



下北半島最大の野外フェス! 9/30

かますべ まさかりズム 2018 日曜日

むつ市イベント広場、むつ来さまい館をライブ会場に青森県内外からアマチュアミュージシャンなど総勢 37 組が出演したイベント「かますべまさかりズム 2018」が開催されました。「かますべ まさかりズム」は音楽が好きで有志により結成し、昨年9月に第1回目が開催され、延べ 3,000 人の観客を集める下北最大の音楽イベントになりました。第2回目となった今年は、あいにくの雨模様となったにも関わらず大勢の観客で賑わいました。会場では大湊海自カレーや大湊 Sora 空っ! などご当地グルメやスイーツなども販売され、熱気でいっぱいでした。

JFL 公式試合初開催!

ラインメール青森公式試合 in むつ

9/16

日曜日

むつ運動公園陸上競技場でむつ市初となる JFL のラインメール青森とコバルトレー女川との公式戦が開催されました。この日、サッカー観戦に集まったのは 634 人。ホームゲームとなったラインメール青森がサポーターからの熱い応援を受け 4-0 と好調な試合運びとなりました。試合前には子どもたちとのサッカー教室や、宮下市長によるキックオフイベント、ハーフタイムには市長 & 子どもたちと選手による PK 合戦など、試合以外でも楽しめる時間も。プロリーグの公式試合がまたむつ市で開かれることを期待しています。



地域全体でミマモリを

むつ市徘徊者等捜索模擬訓練

10/2

火曜日

認知症による徘徊などで行方不明者が発生した際に、早期発見・保護につなげるため、見守りネットワーク事業所、警察、市内の地域包括支援センターなどの協力のもと、むつ市徘徊者等捜索模擬訓練を実施しました。東北で初めて導入される情報通信技術によるサービスで、ボタン型発信機の「Me-MAMORIO」(エーザイ株式会社・MAMORIO 社共同開発)を徘徊者役の持ち物に付け、スマートフォンで位置情報を受信し捜索をしました。現在市内に推定 2,800 人いるといわれる認知症患者が安心して暮らせるまちづくりを願っています。



※イラストは完成予想図

にぎわいの拠点 安全に

むつ市総合アリーナ建設工事安全祈願祭

9/19

水曜日

むつ市真砂町の「むつ市総合アリーナ」建設地において、津島淳衆議員、国土交通省東北地方整備局関係者、市議会議員、市内スポーツ団体関係者、建設関係者など約 80 名が参列し、建設工事の安全とさらなるスポーツ振興を祈願しました。誰もが気軽に利用でき、スポーツと健康づくりを楽しみ、スポーツを通じて交流と文化を育む、にぎわいの拠点。50 年に一度の大事業となる「むつ市総合アリーナ」は 2020 年の完成を目指します。

突然の災害に備えを

平成 30 年度 むつ市総合防災訓練

9/27

木曜日

脇野沢中学校において、全国的に相次ぐ大雨被害や豪雨災害を想定したむつ市総合防災訓練が実施されました。消防団やボランティア団体、警察、自衛隊など 30 団体、約 600 名が参加。土砂に埋没した車両からの救助救出訓練や土のう工法による水防訓練などの風水害に特化した訓練を行うとともに、初めてとなるペット同行避難訓練も行いました。地域の安全安心を守るため、これからも想定外を想定した訓練は続きます。



会津を駆ける

鶴ヶ城ハーフマラソン大会 むつ市選手団表敬

9/27

木曜日

むつ市姉妹都市推進連絡協議会では、戊辰 150 年記念事業の一環として 10 月 6 日(土曜日)から 8 日(月曜日)まで、むつ陸上クラブ、むつアスリートクラブの子供達 16 名を「第 30 回会津若松市鶴ヶ城ハーフマラソン大会」へむつ市選手団として派遣することになり、選手団一行が決意表明のため宮下市長を訪ねました。大会当日には選手宣誓をむつ市選手団が務め、上位入賞した選手も多く、むつ市を PR してきました。



この人 むつちゆ星



東北芸術工科大学芸術工学研究科
國府田 姫菜さん(右)
鈴木 咲穂さん(中)
神谷 恵さん(左)

「初めて来てみて感じたのは、川内の人たちの温かさでした。この場所で制作している間もたくさんの人たちが寄ってくれて、おいしい食べ物をいただいたり、川内の魅力をたくさん教えていただいたりしました。川内の人たちと関わる機会をたくさん得られたのが一番の思い出ですね。」

約 20 日間の滞在の思い出を話してくれたのは山形市にある東北芸術工科大学の大学院生 國府田さん、鈴木さん、神谷さんの 3 人。

彼女たちは、市が芸術家を一定期間招いて、滞在中の活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」の招聘者として初めてむつ市を訪れ、9 月初旬から約 20 日間、川内庁舎をアトリエに絵画制作を行いました。

「写真や風景にはない、画だからこそ感じられる魅力を伝えられたらと思うて描いています。見慣れた風景を幻想的に魅せて、身近なところが素敵な場所だったんだと気づいてもらえれば。」

地域の人のつながりを通じてヨソモノだから気づく川内の魅力。その魅力を約 1.6m x 1.3m の大きなキャンバスに描く 3 人の作品は、引き続き制作中。来年 1 月 ~ 2 月頃、完成した作品の展示会を川内庁舎で開催予定です。ぜひお楽しみに。